



## 【典礼部だより】ミサ曲について④～「平和の賛歌 (アニウス・デイ)」～

感謝の典礼では「奉献文 (エウカリスティアの祈り)」の後、「主の祈り」で交わりの儀 (コムニオ) が始まり、副文 (いつくしみ深い父よ、すべての悪からわたしたちを救い、世界に平和をお与えください……)、教会に平和を願う祈り (主イエス・キリスト、あなたは使徒に仰せになりました。「わたしは平和を残し……)、平和のあいさつ、と「平和」を願う祈りが続きます。その締めくくりが「平和の賛歌 (アニウス・デイ)」です。

この賛歌で繰り返される「世の罪を取り除く神の小羊」(ラテン語: Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,) という呼びかけは、イエス様に初めて出会った洗礼者聖ヨハネの台詞から来ています。

その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。(ヨハネ1・29)

今年の1月18日・年間第2主日のミサで読まれた所ですね。待ち望んでいた救い主とやっと出会えた洗礼者聖ヨハネの喜び・感動が伝わってくることはだと思えます。

1・2回目の呼びかけに続く「いつくしみをわたしたちに」は「いつくしみの賛歌 (キ

リエ)」「栄光の賛歌 (グロリア)」にも出てきました。そして最後の「平和をわたしたちに」ですが、この「平和 (ヘブライ語: Shalom)」ということばには、聖書的に「争いごとがなく平穏無事な状態」以上の意味があります。

神様が神様として崇められ、全世界が神様によって治められている、欠けることのない状態、つまり「主の祈り」で言う「み名が聖とされ」「み国が来」て、「みこころが天に行われるとおりに行われ」ている状態こそ「平和 (シャローム)」です。

そう考えると「平和の賛歌 (アニウス・デイ)」を含めた交わりの儀 (コムニオ) は、洗礼者聖ヨハネがイエス様を目の当たりにし、喜んで「世の罪を取り除く神の小羊」と言ったように、わたしたちが祭壇上に御からだとおんちとして現れてくださったキリストを目の当たりにし、喜んで「平和 (シャローム)」を願う祈り・聖歌とすることができないのではないのでしょうか。

典礼部/〇〇〇〇 監修：ルスニ神父・シスター今田

おかげさまで「典礼部だより」は、サグラダ ファミリア2025年6月1日号から数えて1周年となりました。ありがとうございます。これを機にテーマを募集しています。典礼に関する疑問・質問などお寄せください。神父様・シスター方のご協力のもと、必死に調べてお応えいたします。

## 【勉強会のお知らせ】シノドス流の教会—交わり、参加、宣教—

第2・第4火曜日の19:00~20:00、信徒会館でシノドスの勉強会が開かれています。

Synodusとは、ギリシア語の「ともに(syn)」と「歩む(hodos)」から来た言葉であり、もともと「世界代表司教会議」を指していました。それを大きく変えたのが前の教皇フランシスコです。前教皇は、教会には①「教会とは神の民です。誰をも排除せず、ともに地上を旅する神の民です」、②「すべてのキリスト信者は、洗礼の恵みによって信仰の感覚(Sensus Fidei)をいただいています。だから、キリスト信者は誰もが尊いのです」、

③「洗礼がキリスト信者を宣教へと駆り立てます。洗礼によって神の子とさせていただいて、神のいのちを生きるようになります。同時に、洗礼によって教会を通して新たな『交わり』を生きるようになります」、という3つの大切な要素があるとし、信徒も参加させる形でシノドス第16回通常総会を開きました。

勉強会では、シノドス第16回通常総会の最終文書『シノドス流の教会—交わり、参加、宣教—』をテキストにしています。ホーリーコーナーなどでこの本を入手の上、ぜひ勉強会にご参加ください。 典礼部

## 【水戸教会 今後の予定】「秘跡」「入信」「召命」について考える機会について

6月7日・キリストの聖体のミサで、初聖体を受ける子どもがいます。

さらに7月5日・年間第14主日のミサでは、司教様司式で堅信式があります。堅信は、洗礼を受けた人が信仰をはっきり表明し、聖霊によって強められる秘跡で「洗礼」「聖体」と

ともにキリスト教入信の秘跡を構成します。

そして9月22日には、イエズス・マリアの聖心会のヒマワシ助祭さん(現在は山形教会)が水戸教会聖堂で司祭叙階式を迎えます。

いずれも秘跡や入信・召命について考えるよい機会であると言えます。 典礼部

## 【トピックス】教会横の道路が「台南通り」と名付けられる予定



教会横の道路が「台南通り」と名付けられることになりました。これは、この道路と芸術館通りの角に、台湾・台南市で今も尊敬されている杉浦茂峰さんという零戦パイロットの生家があったことにちなんだものです。

杉浦さんは、1944年10月12日、台南上空で

米軍機と交戦して被弾、眼下の集落への墜落を避けるため郊外まで操縦してから脱出、落下傘で降下中に米軍機の機銃掃射を浴び、20歳で戦死した方です。集落を守った彼を、台南の人々は「飛虎將軍廟」を建てて祀り、そばに新設される道路には「水戸街」という名前が付けられる予定になっています。

カトリック台南教区には9千人ほどの信徒がいて、司教座聖堂は中華聖母司教座堂です。どなたか台南市に行かれることがあったら、同聖堂に巡礼の上、飛虎將軍廟や水戸街の写真を撮って、サグラダファミリアにご提供いただければ幸いです。 広報部